

令和7年度 自己評価表

成田市立大栄幼稚園

1 本園の教育目標

たくましく心豊かに生きる 子どもの育成	
1	明るく元気な子ども
2	自分のことは自分でする子ども
3	友達となかよくあそぶ子ども
4	意欲があり粘り強い子ども

2 目的

- ・本年度の教育活動について評価をし、成果と課題を明らかにする。
- ・自己評価することによって、教育活動がめざしている目標に照らして、どの程度効果があがっているか確かめる。

3 評価項目の達成及び取組状況

※A（とてもそう思う） B（そう思う） C（あまりそう思わない） D（そう思わない）－（該当なし）

分類	No.	評価項目	評価
教育目標	1	教育目標は、幼児の実態にあっている。	A
	2	教育目標を意識して保育にあたっている。	A
	3	明るく元気な子どもに育っている。	A
	4	自分のことは自分でする子どもに育っている。	A
	5	友達となかよくあそぶ子どもに育っている。	A
	6	意欲がありねばり強い子どもに育っている。	A
学年経営	7	学年目標は、幼児の発達に適している。	A
	8	学年間の連絡調整や協力体制がとれている。	B
	9	学級経営案がうまく活用されている。	B
	10	教育目標が達成されるように、指導の重点が立案され実践されている。	A

保 育 指 導	11	一人一人の良さを伸ばせるよう、実態、成長、発達をとらえ保育している。	A
	12	期案は教育目標、幼児の実態から育てたいことを明確にし、適切に活用されている。	A
	13	週案は遊びの流れにそって継続的な指導に役立てられている。	A
	14	日案は個々への援助や教材準備を明確にし、保育に役立てられている。	B
	15	日々の記録、反省、評価は次の指導に生かされている。	A
	16	多様な経験や体験をする中で心を耕す指導援助の工夫がなされている。	A
	17	日々の保育の中で社会的ルールの芽生えを培う保育ができています。	A
	18	人権教育に対し職員間の共通理解が図れている。	B
	19	基本的な生活習慣が定着するようタイミングよく指導している。	A
	20	協力することの大切さを指導することができています。	A
	21	集団生活のなかで今何をしなくてはいけないか、自己判断でき適切に行動ができるような援助ができています。	B
	22	健康、体力の向上を目指した指導の工夫ができています。	A
	23	知的発達を促す援助ができています。	A
	24	年少、年中、年長の交流は適切におこなわれた。	A
	25	園外保育は適切に行なわれている。	A
	26	飼育及、栽培指導は適切におこなわれている。	A
	27	誕生会は各学年のねらいが達成できている。	A
保 健 管 理	28	朝の健康状況の把握を毎日きちんとおこなっている。	A

安全管理	29	安全点検は定期的実施され、結果は的確に処理されている。	B
	30	災害時や不審者侵入時の対応は十分にできている。	A
特別支援教育	31	一人一人のニーズに応じた教育的支援を行っている。	A
	32	幼稚園と保護者、関係機関との協力がなされている。	B
研究	33	研究テーマにそって、効果的（体制・方法）に進められていたか。	A
	34	研究を通して自己の指導力を高めることができた。	B
	35	研究会や研修会を通して自己研磨に努めている。	A
行事	36	園行事は、充実し教育効果があがった。	A
	37	ねらいや内容は綿密に計画されている。	A
	38	各行事の反省や記録が整理され、次の計画に生かされている。	A
備品	39	教具や備品は活用しやすく保管されている。	B
	40	施設設備について、日常的、計画的に点検し、安全管理に努めている。	A
園務分掌	41	円滑な園運営ができるような職務内容、役割分担がなされてる。	A
	42	分掌の内容を理解し、責任をもって行われている。	A
家庭・地域	43	保育参観・保育参加・懇談会は計画通り実施でき、成果を上げることができた。	A
	44	園や家庭での子どもの様子を話し合い保護者との連携を密にし保育に生かすことができた。	A
	45	『ぼかぼかひろば』は地域の親と子の育ちに役立っている。	A
	46	預かり保育は必要とする保護者が気軽に利用することができた。	A
	47	預かり保育は子ども達にとって、異年齢児が触れ合い、ゆったり遊べる場になっている。	A

4 自己評価の具体的な目標や計画の総合的評価結果

※A（できている） B（ほぼできている） C（あまりできていない） D（できていない）

A	<p>○自己評価は、教育・保育を見直す良い機会である。</p> <p>○全職員が園の教育目標を共通認識のもと、幼児教育の基本を理解し、環境構成の工夫や一人一人の心に寄り添いながら、それぞれの育ちに応じた教育・保育の実践がなされている。</p>
---	---

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
更なる異年齢交流の充実	<ul style="list-style-type: none">・園児数が減少してきているため、少人数でも多様な人間関係を構築し、年上への憧れや年下への思いやり、社会性、自律心を養うための環境作りが求められる。本年度取り組んできた園内研究（テーマ『つながる・広がる・育ち合う』～チームで取り組む大栄幼稚園の教育・保育を目指して～）の更なる充実を目指し、引き続き異年齢児交流の充実を図っていく。